

## 山行報告(2020年9月2日号)

### ■二岐溪谷二俣川・沢登り

《山行日》2020/8/30(日)

《参加者》平山、山崎(報告:山崎)

《日程》御鍋神社遊歩道駐車場 7:35~二俣川 7:40~  
1160 m付近 9:35~二俣川 11:40~遊歩道駐車場 11:50

《概要》ハーケン打ちの練習をしながら沢の開拓

《内容》遊歩道駐車場から遊歩道を歩くこと5分程度で沢に到着します。いきなり見事なナメ床が広がります。少し歩くとゴーロとなり倒木が目立ちます。周辺は自然豊かな森に囲まれています。しばらくゴーロとなり飽きた頃にボチボチ滝が出てきます。ロープを出す程の滝はないので、ハーケンを打ちながら、何処に打てば効くのか練習しながら登りました。1160 m付近の二俣で滝が出現し、この上に核心部無いと思われることから、そこで沢を折り返すことにしました。入渓地点まで戻り、今度は気になる下流の偵察に行きます。下流にはお釜が連続しています。少し下ると深いお釜に行く手を阻まれ偵察は終了となりました。さてこの溪相、何処まで続いているのか気になるところです。

### ■苗場山・一般

《山行日》20/8/30

《参加者》梅原

《日程》祓川ルートで和田小屋下からの往復

### ■会津駒ヶ岳・一般

《山行日》20/8/29

《参加者》深澤ズ 《概要》とても暑かったです。

### ■尾瀬沼・その他

《山行日》20/8/25~8/27

《参加者》君島、久保、齋藤

《内容》旧東京電力から「尾瀬沼の水位と水生植物との関係について」調査依頼を受けた谷本先生に同行し尾瀬沼に行って来ました。先生は昨年、人食いバクテリアに侵され生死をさまよってから初の山行

矢板駅発9時10分発、御池着12時、沼山峠まで電動バスに乗り、ゆっくりと尾瀬沼山荘に向かう。二人きりだったため、先生から植物の名前や生態についてイヤと言うほど聞かされた。

・2日目(26日)は東電の方3名と今山行の目的であった船旅、湖上や湿地から燧ヶ岳を撮影(公表できないのが残念)

ボートはバッテリーで駆動し時速5km、東電職員の方の話では湖上で雷がなると不安になるとか。何ヶ所かの調査の後に先生の話が長くなり、雲行きがおかしい。東電の方々の不安そうな顔、仕方なしに私が先生に「話はボートの中でして下さい。」

夕方、山荘で君島さん・久保さんと合流、小淵沢田代に寄って来たとのことで夕食間に到着、急いで風呂に入りビールで乾杯 旨い

・翌27日は生徒3名でクマ・シカ被害の説明を受ける。大江湿原で久保さんが来年の市民ハイキングは、先生(牧野富太郎博士が設立し、110年の歴史を持つ牧野富太郎植物愛好会の会長)を講師に植物観察会をと話している。どうやら講師料なしで依頼しているようだ。沼山峠からのバスを途中下車し十兵衛田代へ、明治初期から十兵衛田代では見つからないナガバノモウセンゴケを確認し帰宅した。

十兵衛田代から御池までの徒歩、暑くてバテました。

### ■大蛇尾川・沢登り

《山行日》2020/8/25日(火)~26日(水)

《参加者》平山、山崎(報告:山崎)

《日程》・8/25大蛇尾林道入口 11:45~取水口~二俣 3:15

・8/26二俣 6:00~東俣大滝~二俣 8:30/9:50~取水口 11:00/11:30~大蛇尾林道入口 13:20

《概要》釣りを楽しみながら沢歩き

《内容》4回目の計画にして完璧な天気、やっと沢泊に行ける事になりました。ビバーク予定の二俣までは10キロの道のり、丁度良い感じで曇りだし涼しい。ビバーク地に到着しツェルトを設営、意外と上手く設営できました。夕ご飯の調達に釣り竿を持って頑張りましたがルアーへの反応はイマイチ、ライズしている魚を釣れないのは残念で仕方ありません。そうして夜も更けて焚火を楽しみました。焚火を囲んでお酒は最高です。

二日目は東俣の大滝に向かいます。釣果はイマイチですがあの大きな滝は素晴らしいですね。登る方法を下見して次回に繋げたいと思います。あとはツェルトをのんびり撤収し、長い道のりをひたすら歩きました。

### ■三本槍岳・一般

《山行日》20/8/24

《参加者》東 《日程》峠の茶屋から三斗小屋、大峠經由で三本槍岳で峠の茶屋 《概要》 《内容》

## ■那須高雄股沢・沢登り

《山行日》20/8/22

《参加者》まっさん、やますきーお

《日程》高雄温泉 6:40～二俣 8:05/8:25～布滝 9:20/9:30～二俣 10:20/10:50～高雄温泉 12:20

《概要》奥の滝を見に行きました。

《内容》せっかくだからとまっさんの提案で高雄股沢の滝を見に行くことにしました。高雄温泉に車を置かせてもらい出発です。右からの湧き水がおいしいです。沢に入ると笹がうるさいところがありましたが、布滝までは問題ないです。二俣に戻り、せっかくだから右俣すぐの滝も見に行きました。こっちの滝のほうが迫力がありますね。2つの滝を見て満足して戻りました。

## ■日留ヶ岳・一般

《山行日》20/8/19

《参加者》梅原

《日程》《概要》《内容》十数年振りの日留賀岳でした。

山頂は快晴、快適な気温でした。麓は暑い。

## ■大朝日岳・一般

《山行日》20/8/10～8/11

《参加者》やますきーお、あさちゃん

《日程》・8/9 那塩 17:10==西川道の駅 20:10(泊)

・8/10 道の駅にしかわ 5:30--日暮沢小屋 6:30/6:50～清太岩山 11:05～竜門小屋 14:10(泊)

・8/11 竜門小屋 4:30/5:20～金玉水 8:25/8:50～大朝日岳 9:30/9:40～銀玉水 10:35/11:15～古寺山 12:55～日暮沢小屋 16:50/17:20--水沢温泉 18:00/18:40--食事-寒河江I.C.20:30==黒磯板室I.C.--那須塩原 23:00

《概要》天気恵まれ、稜線の花々を楽しみました。

《内容》・8/10 思ったよりひんやりした朝、大水が出た後の感じの林道を進み、日暮沢から登りだしました。木陰ではあるものの暑い登り、しんどいです。ゴロピツで顔を洗い、清太岩からは気持ちいい風に吹かれて歩けました。コウゾリナ、マツムシソウ、ハクサンイチゲ、何とかリンドウなどなど。竜門小屋からの夕日がきれいでした。

・8/11 きょうもいい天気です。西風が強く、気持ちいいです。稜線の花々がきれいです。ハクサンイチゲがたくさん咲いていたのには驚きました。ニッコウキスゲ、トリカブト、オミナエシ。38年ぶりの金玉水、感動でした。大朝日小屋付近にはナデシコ、クルマユリ、フウロが満開でした。銀玉水で冷やしラーメン。ハナヌキからの下りをがんばって、小屋に戻りました。

あさちゃん、相当がんばりました。えらかったです。

## ■平ヶ岳・一般

《山行日》2020/8/10(月)

《参加者》東、倉俣 報告倉俣

《日程》・8/9(日)大田原 18:00--平ヶ岳登山口 P21:20

・8/10(月)登山口 P4:05～下台倉山 6:05～台倉清水 7:07～白沢清水 7:50～姫の池 9:00～平ヶ岳 9:29～山頂湿原 9:33/9:43～玉子石 10:25～姫の池 11:02～白沢清水 11:45～台倉山 12:35～下台倉山 13:21～登山口 15:03--大田原 18:30

《概要》遙かなる湿原の山

《内容》山頂付近や姫の池の池塘が素敵でした。縦走中、常に麓が見える良いコースでした。が、遙か遠い山でした。20年ぶりでした、玉子石は、健在でした。

## ■八海山・笹刈り・その他

《山行日》2020/8/10(月・祝)

《参加者》山崎 《日程》《概要》《内容》いつの間にか、矢板市最高地点が矢高山になっていました。

## ■高原山八海山神社・一般

《山行日》2020/8/9(日)

《参加者》大森、浜中、山崎 (報告:山崎)

《日程》学校平 7:40～小間々～大間々台 8:40～八海山神社 9:40/10:20～大間々台～小間々～学校平 12:00

《概要》雨天で延期になっていた山歩きを決行

《内容》じめじめした天気の中、学校平から八海山神社に向けて歩き始めました。たろうも久しぶりのせいかペースが上がりません。大間々まで1時間のスローペース。大量の汗をかきながら八海山神社まで無事登りきる事ができました。高原で飲むアイスコーヒーは最高の味、天然クーラーでたっぷり涼み下山となりました。

## ■前黒山・一般

《山行日》20/8/2

《参加者》梅原、松秋ズ、東 《日程》《概要》《内容》

## ■鳥海山・一般

《山行日》20/8/5 《参加者》深澤ズ 《日程》

《概要》花が一杯でした。《内容》

## ■那須茶臼岳・一般

《山行日》20/8/1

《参加者》やますき一お

《日程》峠の茶屋～峰の茶屋～茶臼岳～牛ヶ首～峠の茶屋

《概要》天気が良く、気持ちよかったです。

《内容》登山者カード記入を勧めた後、茶臼岳に登りました。少しガスッたりしましたが、気持ちよかったです。人は思ったよりも少なかったです。

## ■那須朝日岳・一般

《山行日》20/7/5

《参加者》斎藤常、本間 《日程》 《概要》降ったりやんだりの天気でした。《内容》

## ■北アルプス北部・会山行

《山行日》2020/8/14～16

《参加者》倉俣、植木、須藤、遠藤、西脇（報告西脇）

《日程》●13日 矢板 14:00--立山駅駐車場 22:00

●14日 立山駅駐車場 5:00--室堂 8:00～一ノ越 10:00～雄山 11:00～大汝山 12:00～富士ノ折立 12:40～別山 15:00～劔沢 16:00

●15日 劔沢 3:30～2番目の鎖場 4:30～分岐(登り専用)5:50～カニのタテバイ 7:00～劔岳山頂 7:40～カニのヨコバイ 8:30～劔澤小屋 12:00～劔御前小屋 14:20～雷鳥平 16:00

●16日 雷鳥平 6:40～室堂乗越 7:30～奥大日岳 10:00～雷鳥平 14:00～ミクリガ池 15:00～室堂 15:30

《概要》憧れの室堂・立山・劔岳・雷鳥平へ。険しい岩場と高山植物たちの対比、北アルプスのスケール感を楽しむ。

《内容》夏の会山行担当の倉俣さん・西脇で話し合い、新型コロナウイルスの影響で人の出入りが読めない中、小屋やテント場の営業状況などを鑑みて今回の計画を立ててゆきました。

小屋も完全休業や通常の1/2～2/3のキャパシティでの完全予約での営業、テント場も予約制とのこと。普段の北アルプスではありえない状況の中で日程やメンバーの体力・僕の希望などを交えて今回の山行となりました。そして食料計画は3人の若手が担当します。計画を立てる上で地図を見ながら他のコースの案や倉俣さんの今までの山行のお話などを聞いていくと、頭の中でぼやっとしていた『北アルプス北部』というもののイメージがだんだんと形になっていき、気持ちが高まっていくのを感じました。

●13日、前日の予報では富山県の天気があまりよろしくないということで、初日はのんびり昼過ぎに出発し、しっかり英気を養い立山駅で一泊。

●14日、朝5時ごろ～起床し、準備をしてゆっくり出発。チケットの売り場も普段ではありえないほど空いているとのことで、乗車から室堂まであつという間でした。バスに乗っている間少し体調が悪く「まさか高山病？」などと心配していましたが、室堂から歩き汗をかき始めると調子も良くなり、前日英気を養いすぎたとちょっと反省。

そして、憧れの室堂。テレビや雑誌で見た景色に感動しつつ、登山道沿いに咲くミヤマダイコンソウ、シラネニンジンなどなどの花や少し遠くにはっきりわかる奥大日岳、少しばかり雲に隠れてしまっている立山三山を眺めながら一ノ越に登っていきました。

一ノ越山荘に到着し目を凝らすと、まず遠くに槍ヶ岳が目に入り、稜線を辿っていくと大天井岳、燕岳が見えました。それから赤牛岳や野口五郎岳などなど。遠くに北岳や八ヶ岳などの名峰がそびえ、倉俣さんと植木さんに解説していただいているのを夢中で聞きながら、しばし休憩しました。

風があり、すこし寒くなってきたところで雄山へ向かいます。ここまでは家族連れも多く、お猿さんのようにひよひよ登っていく子供たちを横目に、雄山から見えるであろう後立山連峰に思いを馳せながら、じっくりじっくりと登ってゆきました。

雄山山頂に到着し、人の多さにびっくり。密密の中絶景ポイントに進むと、後立山連峰の山々が雲の中に見える隠れていました。

神社にお参りし、大汝山への道を左側に見える雷鳥平を眺めながら気持ちよく歩いてゆきました。

大汝山山頂手前の休憩所につき、入り口手前にあるビールや中で売っているうどんやカレーを見ないようにしながらすこし休憩。

山頂に到着すると富山側にあった雲がすこし晴れ、後立山連峰と黒部ダムが少しばかり顔を覗かせてくれました。

そこから少し歩いて富士ノ折立へ。小さな看板のみのピークでしたが、室堂や雷鳥平、内蔵助雪渓や後立山連峰などを見渡せる気持ちの良い場所でした。

そこから曇り空となってきたこともあり劔岳への眺望はないと判断し、真砂岳は巻いて大走り方面へ。すこし歩いていくと地図には道がありませんが別山方面へ踏み跡があり、そこを歩いていくことに。そのおかげで100mほどの登山返しをしなくて済みました。

巻道が終わりと、雲も少しだけ薄くなったポカポカした

日差しのなか休憩。別山への最後の登り、また今日の行程での最後の登りを前にしてすこし疲れが出てきました。顔に疲労感が見える遠藤くんや、かなり眠そうな須藤くんを見て、僕は逆に元気が湧いてきてしまったのを覚えています。もう一息。

そして別山に到着。本来であればトゲトゲのかっこいい剣岳が見えるはずでしたが、山頂はすっかりガスに覆われていました。

ガッカリしたような登りを終えてほっとしたような気持ちで辺りを見回すと、なんとチングルマが元気いっぱいに群生しており、しばし疲れを忘れて写真を撮りました。

別山より剣沢への下り、早くテントの中で英気を養うぞー！と少し軽くなった足取りで進んでいくと、なんと雲の中にいたはずの剣岳が姿を見せはじめ、剣沢につくころにはすっかり絶景に。青空をバックに憧れの剣岳、テントを張り夕食の準備をしているころにはそれが夕焼けに少しずつ色づきはじめ、しばらく見惚れるほどでした。

それとともに植木さんもいい感じに赤く染まったところで、本日の夕食が完成。西脇担当の今日のメニューは、ホタテとタラとエビ、そして野菜とお出汁の旨みたっぷりのうどんです！熱中症警報が出るほどの下界の暑さとは打って変わって、剣沢はダウンを着ていても肌寒いほどの気温。そんな山の真っ只中で温かい食事を皆で囲んで食べ、飲む。こんな幸せで楽しい時間はないと感じた夜でした。

●15日、本日はお昼前ごろから天気は崩れる予報。場合によっては雨具を着てのスタートも予想されるということで、早朝 3:30 からヘッドランプをつけての行動開始でした。

不必要なものをデポして軽くなった荷物に感動しながら剣沢出て剣山荘の手前まで歩いていくと、前剣あたりにヘッドランプの灯りが見え、いよいよはじまるんだなと気が引き締まる思いでした。

ヘッドン行動をしている中、想像よりも風もなく汗をかきそうでしたので早めに植木さんに「雨具脱ぎます！」と遠慮なく伝えます。それから少し歩いていくと、暗闇の中「ルートはこっちでいいんだよね。」と植木さん。一応僕もスマホで間違いないことを確認してそのまま進んでゆきました。たった数分の他愛のないやりとりでしたが「こういうちょっとしたことを遠慮なく言い合えるのは、とても大切で良いことだね。」と、植木さん。言葉に表すのは難しいですが、大変印象に残ったやりとりでした。

一の鎖に取り付き、いよいよ剣岳登山がはじまります。

一服剣というピークの前に長いガレ場があり、上からの落石の緊張感、何より落石をしてはいけないという緊張感、そしてルート取りなどなど怖いような楽しいような登りが続きました。

様々な岩場を越え、前剣を過ぎるといよいよカニのタテバイがはじまります。僕や遠藤くん、須藤くんにとっては山行中で確保なしの初めての本格的な岩登りでした。天気があまり良くないのもあり、道中からここまで高度感がないのがとても残念でした。濡れて滑りやすくなった鎖は使わず、なるべく岩場を使って登るように心がけ、どうしても無理なところは鎖を頼るそうしてゆっくり確実に、ドキドキニコニコ楽しく登りました。

たまに上を見ると、遠藤くんと須藤くんが険しい顔をしながらも着実に登っていくのが見え安心して登り進めることができました。

剣沢よりいくつもの長く険しい楽しい難所をいくつも乗り越えて、ようやく山頂へ。雲に包まれた山頂でしたが、無事に登ってこられた達成感と皆さんの笑顔を見て「本当に来て良かった」と思えるいい場所となりました。

記念写真を取り、剣岳の天気に関して1勝4敗の倉俣さんと密かにリベンジを誓い、山頂を後にします。

来た道を引き返すといよいよ2つ目の山場、カニのヨコバイが見えてきました。個人的にはタテバイよりもスリル、高度感があり楽しい岩場で、先に進む遠藤くん、須藤くんの表情はさらに険しく。西脇の顔はさらにニコニコだったと思います。

ヨコバイ以降も難しい場面が何度かありましたが、少しずつ岩場に慣れてきたのか僕ら3人も危なげなく進むことができました。

難所をいくつか越えると、雲の中にほんの少し晴れ間が見え、奥大日岳の斜面が少し顔を覗かせ、足元にはなんと『シコタンソウ』が！高山植物はまだまだ勉強中ですのでわかりませんが、とても珍しいようです。やった！さらに後ろを振り向くとこれまで下ってきた岩場とともに剣岳の一部が「またこいよ！」と言っているかのように姿を現してくれました。岩場の所々にイワギキョウやダイヤモンドソウ、トウヤクリンドウなども見ることができ、自然の強かさを感じる余裕も出てきたようです。

一服剣の手前で、剣岳から伸びる数多くの稜線を眺めながら休憩。山頂へは様々なアプローチ方法があるのを教えていただきながらほっと一息つきました。

それから帰りの登りと同じように落石に注意しつつ慎重に進み、剣沢小屋が近づいてくるころには強い眠気

が襲ってきました。大小様々な岩場を前にして、僕も知らずの内にかなり緊張していたんだなと思った瞬間です。

剣沢小屋に少し寄りようやくテントに戻ってきました。休憩も早々に撤収、雷鳥沢へ出発します。剣御前小屋への登り返し、荷物を詰め直し少し重くなったザックを背負って、じっくりじっくり歩を進めていくと「ああ、岩場もいいけれど、重い荷物を背負ってのじっくりゆっくりな登りも最高だなあ」と謎の幸福感に包まれていくのを感じました。

剣御前小屋にてすこし休憩。ここから雷鳥平へなが〜いなが〜い降りが続きますが、この先に待っている温泉とビールと夕食を思うと足取りは軽々「そういえば雷鳥見たいな?!」なんて欲まで出てきました。雷鳥平の手前で悠々と湧き出る冷たい立山の湧水を発見。すかさず『立山飲み』し、歩を進めます。

剣岳の大変さも忘れ、るんるんで雷鳥平へ到着すると、まさに十人十色様々な人がテントを張っていました。

多く感じましたが大体いつものほんの1/3ほどの埋まり方ようです。

設営も早々にロッジ立山の温泉へ。人が少なくなったのを見計らい、源泉掛け流しを水でうめて入る、狭いながらも最高の露天風呂を5人でぎゅうぎゅうで堪能しました。最高です。

心も身体も温まったところで待ちに待った夕食、担当は遠藤くん。メニューは丸々トマトのメスティン炊き込みご飯とチーズタッカルビ、そしてシメに辛ラーメン。美味しすぎて皆「うんめ"え！なんだこれ！うんめ"え！」とうめき声を上げながら食べていたと思います。シメのラーメンは植木さんと須藤くんに作っていただきました。

美味しいご飯に美味しいビール、加えて温泉。1日目に続いて、幸せな夜を雷鳥平にて過ごしました。

●16日、この日は【雷鳥平より奥大日岳、大日岳を経て別称滝へ下る】長くハードな山行ですので、昨日と同じようにかなり早めのスタートの予定です。しかし、若者3人がしっかり熟睡&バッチリ寝坊。ということで、体力や帰りの時間を考慮して【雷鳥平より奥大日岳をピストン、それから室堂へ】というコースに変更しました。というわけでゆっくり朝食をとります。担当は須藤くん。なんと、4種類の Pasta が次々と出てくる豪華な朝食で、疲れた身体には抜群の良い朝となりました。

テントや荷物を雷鳥平へデポし、いざ奥大日岳へ。天気は上の方がすこしガスリ気味で、午後にかけて天気も良くなる予報ということで、景色を期待しながらの

出発となりました。

まずは室堂乗越を目指して両側にオンタデが群生する道を登っていくと、木道が現れました。すると、所々に開花後で花が落ちた可愛い姿のチングルマを散見するようになり、顔を上げて辺りを見回すと上から下までびっしり一面のチングルマ畑。思わず声をあげるほどでした。倉俣さんは開花中に来たことがあるそうです。いいなあ。

その後もチングルマ、ハクサンフウロ、ハクサンイチゲ、ミヤマダイコン、トリカブト、オトギリソウ、シラネニンジン、ミヤマキンボウゲ、ウサギギク、カラマツソウ、タテヤマリンドウ、クルマユリ、カライトソウ、ヨツバシオガマ、ミヤマアキノキリンソウ、イワギキョウ、などなどなど…

さらに登り続けてゆくとオレンジの大きな花が遠くに見え、まさか！と思うと、なんとニッコウキスゲが数輪。その先にはなんとシナノキンバイの群生地が…！！

次々に可愛い姿をみせる花たちと、左側に目を向ければ雄山や大汝山、室堂や雷鳥平や地獄谷の絶景。疲れも忘れて進んでゆきました。

そして山頂の奥大日岳へあと数十メートルというところで、発見しました。タテヤマチングルマ！チングルマの白い花びらに淡いピンクの装いとといった感じで、とても可愛い花に癒されました。

山頂に到着し一息。奥大日岳はお花畑の山とは知らず目が回るほどの高山植物に飽きることのない登りが続き、帰りも賑やかな下りで楽しい山でした。何度か剣岳が雲の中から見えそうで見えないようなタイミングがありましたが、残念ながら見ることは出来ませんでした。話を聞くと、倉俣さんはバッチリ見たことがあるそうです。いいなあ?!

下山途中、雷鳥平の手前の湧水ポイントにて、またすかさず『立山飲み』そしてペットボトルに水を貯めて『立山浴び』をしました。おすすめです。

無事テント場に到着、撤収をしてすこし休憩。実は奥大日岳への登りの途中で雷鳥に似た3~4キロほどの白くて可愛い石を発見しました。『これを持ってれば雷鳥に会えるかな?』なんて思い、そこから山頂~雷鳥平まで大事に抱えてましたが雷鳥は見られず…とてもいいトレーニングとなりました。

立山へのバスの時間に合わせて室堂へ出発。途中、ガスの影響でかなり広範囲で高山植物が枯れており、植木さんのお話を興味深く聞きながら雷鳥平を後にしました。

ミクリガ池からの立山の眺めも見事で「あそこからあ

そこまで歩いたのか…」なんてしみじみと昔のことを思い出すかのように話していると、言葉にはし難い不思議な達成感と「もう終わってしまうのか…」という寂しさを感じたのを覚えています。

室堂にて2日前に記念撮影をした場所で再度写真を撮り、2泊3日の山行を終えました。

はじめての北アルプス北部、はじめての5人でのテント泊山行、はじめての本格的な岩場などなど、普段の山登りでは知り得ない経験を、倉俣さんと植木さんのお2人のおかげで体感することができました。

そして須藤さんと遠藤くん、2人がいてくれたから感じたことやわかったこと、その他にも多くのことを学ばせてもらったと思います。

4日間を通して「幸せで楽しい気持ちいいことや学ぶことが沢山。ちょっと大変だった。」という感想です。これからの山登りがさらに楽しみとなった会山行でした。

#### ■感想

##### ●植木さん

倉俣さん、若者3人組。お疲れさまでした。倉俣さんのルート取り、ポイントでの注意喚起、先を見通した行動がとても光っていました。さすがです。若者3人のエネルギーとやる気がすばらしかったです。劔岳の岩場では、慣れない3人は相当怖かったんだろうけど、落ち着いて安全に通過できていました。これからの成長が楽しみです。食事は若者が担当してくれて、夕ご飯が楽しみでした。朝ごはんの Pasta 4種も圧巻でした。次回の北アルプス合宿は、西穂高から奥穂高までなどの話が出ていますし、八ッ峰の岩登りも考えられています。

##### ●倉俣さん

参加メンバーの皆さん、お疲れ様でした。

久しぶりの大勢でのテント泊縦走が、楽しかったです。また、若者達のおかげで山で美味しい食事をいただくことが出来、ありがとうございました。また皆でアルプスに行きましょう。

植木さん、色々ありがとうございました。

##### ●須藤くん

立山、劔岳、奥大日岳の山行ではお疲れ様でした。3日も違った山行でいろいろ勉強になりました。初日の立山では、室堂に辿り着くまでケーブルカーや高原バスに乗り TV で前に観たことあるルートにワクワク感が高まりました。立山の気持ちの良い稜線歩きも満喫できました！2日目の劔岳は曇りでしたが僕にとってはそれがありがたく(下が見えないため)次回は晴れ

てる時にリベンジしたいです！3日目奥大日岳は穏やかで気持ち良かったです！念願のタテヤマチングルマもみれて満足でした！夏休みにいい思い出となりました(^)次回は今回の山行で眺めた、どこかの山にチャレンジしてみたいです！

##### ●遠藤くん

自分にとっては夏の登山もはじめてで普段よりも飲水量、発汗量もすごく靴も慣れておらずとても身体に負荷がかかりました。

劔岳は高度感を感じないものの悪天候で足場が悪くとても怖く感じました。ザレ場では滑落もしかけ、ザレ場・ガレ場の歩き方の勉強になりました。

そんな辛いことも多くありましたが圧巻の景色と達成感でとても楽しかったです。みなさんありがとうございました。